

4-1-8 特殊診療部

4-1-8-1 移植免疫診療科

1. 概要、特色

1.1 概要

欧米での臓器提供は脳死者からがほとんどであるが、本邦では1997年に脳死法案発令後も脳死者からの臓器提供は限られており、9年間(2005年末までの集計)で30例の脳死肝移植が行われているにすぎない。

慢性的な脳死臓器不足から、1989年に胆道閉鎖症患者に対して自発的臓器提供意思をもつ血縁者から肝臓の一部を提供する生体部分肝移植の第1例目が行われて以来、生体部分肝移植症例数は年々増加してきており、2005年末までの集計では3,783例に達している。

本邦での生体肝移植年間症例数は約560例で、18歳以下の小児症例は120例である。小児移植の専門施設は限られており、当院で高度先進医療として移植医療を展開する意義は非常に大きいと思われる。当院では平成17年11月に小児肝移植プログラムを立ち上げ第1例目の生体部分肝移植を施行し、平成18年度中には20例の小児肝移植術を施行するに至り小児肝移植数は国内最多に達している。今後、当院研究所移植外科部門の絵野沢伸室長と協力し、各種脳死移植、小腸・肺・膵島・肝細胞移植へと発展させていく予定である。

2. 診療活動、研究活動

2.1 診療活動

平成17年11月から平成19年8月31日まで39例の生体肝移植を施行した。他施設からの直接入院の割合が多く、紹介元の病院の所在地は東京都内、神奈川、千葉、埼玉などの関東圏のみならず、秋田、名古屋、大阪、宮崎、熊本など全国各地から肝移植を必要とする患児を受け入れている。他院からの入院にあたっては救急車による搬送のみならず、ヘリコプター搬送もおこなっている。

当院では小児集中治療が充実しているため、血液濾過透析等の管理を要する劇症肝不全、代謝性肝疾患の移植に対して、内科的治療および移植治療を含めた総合的治療を迅速に行える。内分泌・代謝科、消化器科の協力のもと、将来的に年間約60例以上の肝移植症例が見込まれる。

本邦における2003年肝移植ドナー死亡事例から、ドナーの身体的経過ばかりでなく精神的な周術期管理の重要性が指摘されている。当院では、ドナー・レシピエントともに術前から、こころの診療科、院外倫理委員参加による診療・評価を行っている。

移植医療責任者である笠原群生医長は、京都大学・Kings College(英国)で肝移植1200例、小腸移植6例、腎臓移植40例、肝細胞移植、膵島移植等の豊富な経験を持ち、手術手技・周術期管理に関して医療従事者に十分な教育ができる。

2.2 研究活動

代謝性肝疾患に対する肝細胞移植を、生体肝移植におけるMonosegment移植時の余剰肝臓を用いて臨床応用する予定である。研究所移植外科部門の絵野沢伸室長と共同研究を行っている。

3. 社会的活動

3.1 教育講演

笠原群生医長は院内の各診療科医師、移植患者に関わるコメディカルを対象に勉強会を行うとともに、下記のごとく院外での小児生体肝移植に対する理解と普及を目的に積極的に教育講演活動を行っている。

1. 笠原群生：小児肝移植講演．慈恵医大移植医療教育セミナー，東京，2006.5.13
2. 笠原群生：生体肝移植について．成育イブニングセミナー，東京，2006.5.24

3. 笠原群生：小児生体肝移植の問題点．世田谷勉強会，東京，2006.6.29
4. 笠原群生：脳死肝移植の手術手技．慶応大学外科勉強会，東京，2006.7.4
5. 笠原群生：小児肝移植の適応疾患．清瀬小児病院講演会，東京，2006.9.21
6. 笠原群生：小児肝移植の現状．小児集中治療ワークショップ，千葉，2006.11.26
7. 笠原群生：小児肝移植のトピックス．関西医科大学講演会，大阪，2006.11.29
8. 笠原群生：小児肝移植のトピックス．移植ウインターセミナー，東京，2006.12.3
9. 笠原群生：有機酸代謝異常に対する肝移植．肝移植周術期管理検討会，京都，2007.1.27
10. 笠原群生：小児肝移植，世田谷医師会講演会，東京，2007.2.1